

| | | | | | |
|---|--------------------------------|--|----------------------------|--|--------------------------------|
| ■After 建築名称 下段: 英語名 | | バランザーテ教会 Chiesa Mater Misericordiae a Baranzate 建築URL | |  | |
| 建築用途 | | 大分類 宗教施設 | 小分類 カトリック教会 | | |
| 設計者 | | SBG Architetti 設計事務所のURL | | | |
| 所在地 | | Via Conciliazione 22, Baranzate, Milano, イタリア Google Map | | | |
| 改修年 | | 2012-2015年 | 元建築の竣工年 1957年 | | |
| 建築規模 構造・階数・面積 | | 地下1階、地上1階、鉄筋コンクリート(プレキャスト)造、延べ面積880㎡ | | | |
| 掲載書誌 | | Casabella(No.875), Abitare(No.495), Domus(No.923), Il Giornale dell'Architettura(2008.12.15) | | | |
| 賞・選定 | | Second prize at the Grand Prix 2013-15 in the category of public service and industrial buildings | | | |
| 主な関連法規、条例、助成金等 | | | | | |
| 関連組織等 | | | | | |
| 資料等 | | Angelo Mangiarotti Foundation | 資料のURL | | |
| ■Before 建築名称 | | バランザーテ教会 | | 概要 before この教会はアンジェロ・マンジャロッチェの名を世に知らしめたデビュー作。半透明ガラスの白い壁とプレキャスト梁、天井パネルで構成され、光が満ちる空間にキリスト像が浮かび上がる姿は、モダニズムの設計手法で独自の静けさと威厳をたたえている。 | |
| 建築用途 | | 大分類 宗教施設 | 小分類 カトリック教会 | | |
| ■写真 Before | 2重ガラスに挟まれたポリスチレン断熱材が劣化してしまった様子 | After | 耐震性を考慮してステンレス鋼で再構成された外部サッシ | After | 劣化部分の是正は最小限とし、美しく忠実に復元されたインテリア |
|  | |  | |  | |
| 撮影者 撮影: 柳沢伸也(2005年) 提供者 | | 撮影者 撮影: 佐久間達也 提供者 | | 撮影者 撮影: 佐久間達也 提供者 | |
| ■関連タグ/リノベーションキーワード | | 補強、復原、外観保存 | | | |
| ■リノベーション内容 | | この教会は、アンジェロ・マンジャロッチェ、ブルーノ・モラッスッティ、アルド・ファヴィーニ(構造設計)によって1956年に設計され、イタリアの建築デザインと建設技術の大きな転換点となった建物である。コンクリート、スチール、ガラスといったモダニズムを象徴する素材の巧みな使用と、高度な建設技術が融合した本作は、創建から70年近く経た今なお人々を魅了し続けている。特に、プレキャスト・コンクリート(PC)は近代化の象徴として注目された。 しかし、モダニズム建築は経年劣化に直面し、半透明の白いガラスパネルで挟まれたポリスチレン断熱材が大きく傷み始め、2003年頃から改修の必要性が指摘されていた。2012年、マンジャロッチェの死後により早く改修工事が始まり、SBG Architetti設計監理の下、慎重な復原が進められた。外壁のガラスパネルは、3重ガラスと乳白フィルムを用いた高気密・高断熱仕様へ更新され、スチール製サッシは耐震性を考慮してステンレス鋼で再構築された。黒ずんだ梁も丁寧に洗浄された。内外装の意匠は忠実に復原され、劣化部分の改修は最小限にとどめられている。 | | | |
| ■備考 | | イタリアの建築デザインと建築技術の大きな転換点となった歴史的文化遺産であり、丁寧な保存・修復活動が認められ、2008年にDOCOMOMOに登録された | | | |
| ■作成者 氏名/所属 | | 柳沢 伸也 | 作成協力者 | 佐久間 達也 | 整理番号 No. 204 |